

News Release

(別添)

2019年5月23日
NITE(ナイト)
独立行政法人製品評価技術基盤機構
九州支所

ガスこんろの火災に注意(九州・沖縄8県版)

～火災事故に潜むヒューマンエラー～

2018年度において、ガスこんろの重大製品事故^{※1}が全国で37件(そのうち九州・沖縄8県で4件)発生しました。ガスこんろの事故は火災に直結し、やけどなどの被害につながりやすいため、注意が必要です。2018年度において全国で3件(そのうち九州・沖縄8県で2件)の死亡事故が発生しています。ガスこんろの使用に関する注意喚起を行い、事故の未然防止を図ります。

ガスこんろに関して、2008年10月に調理油過熱防止装置及び立ち消え安全装置の装備が法令で義務付けられました。この規制に先立ち、2008年4月から業務団体の自主基準により安全装置がこんろに標準装備され始めています。また、この自主基準と併せて、多くの安全機能を装備しているガスこんろが販売されています。

しかし、依然として誤った使い方による事故や安全装置の付いていない古いこんろを使用している事故が発生しています。2013年度から2018年度の6年間にNITE(ナイト)へ重大製品事故として通知された情報(以後、重大事故情報と記す)の中で、ガスこんろの事故は九州・沖縄8県で25件^{※2}ありました。そのうち、調査が終了した事故が22件であり、使用者の誤使用などにより発生した事故は12件ありました。事故の多くは誤った使い方が原因になっていることがわかります。特に使用中にその場を離れたり、汚れを放置したりすることが原因の事故が多く発生しています。ガスこんろの事故は火災事故に至る可能性が高く、九州・沖縄8県の事故25件はすべて火災事故となっており、周囲に被害が及びます。事故の事例や事故防止のためのポイントを確認し、事故を未然に防ぎましょう。

■ ガスこんろの気を付けるポイント

- ・ 使用中はその場から離れない
- ・ グリルは使用后、こまめに掃除する
- ・ グリル庫内で調理物や汚れなどが発火した場合は、扉を開けると火があふれ周囲に燃え広がるおそれがあるため、操作ボタンや器具栓つまみを消火の状態に戻し、火を収まるまでグリルの扉を開けない
- ・ 煮こぼれや油汚れはきれいに拭き取る
- ・ ガス臭いときは絶対に火を点けず、ガス栓を閉めて販売店やガス事業者に連絡する
- ・ 点火しにくいなどで繰り返し点火操作をするときは、ガスのにおいがなくなるまでしばらく待つ
- ・ こんろの周囲に燃えやすいものを置かない

(※1) 消費生活用製品安全法に基づき報告された重大製品事故情報

(※2) 重複、対象外情報を除いた事故発生件数。

1. 事故の発生状況

(1) 九州・沖縄8県におけるガスこんろの重大事故情報 年度別 被害状況別 事故発生件数

図1に九州・沖縄8県におけるガスこんろの重大事故情報25件の「年度別 被害状況別 事故発生件数」を示します。

2013年度から2017年度までの6年間で、死亡2件、重傷2件、軽傷2件、拡大被害17件、製品破損2件の計25件発生しています。

なお、すべて安全装置が装備されていないガスこんろで事故が発生しています。

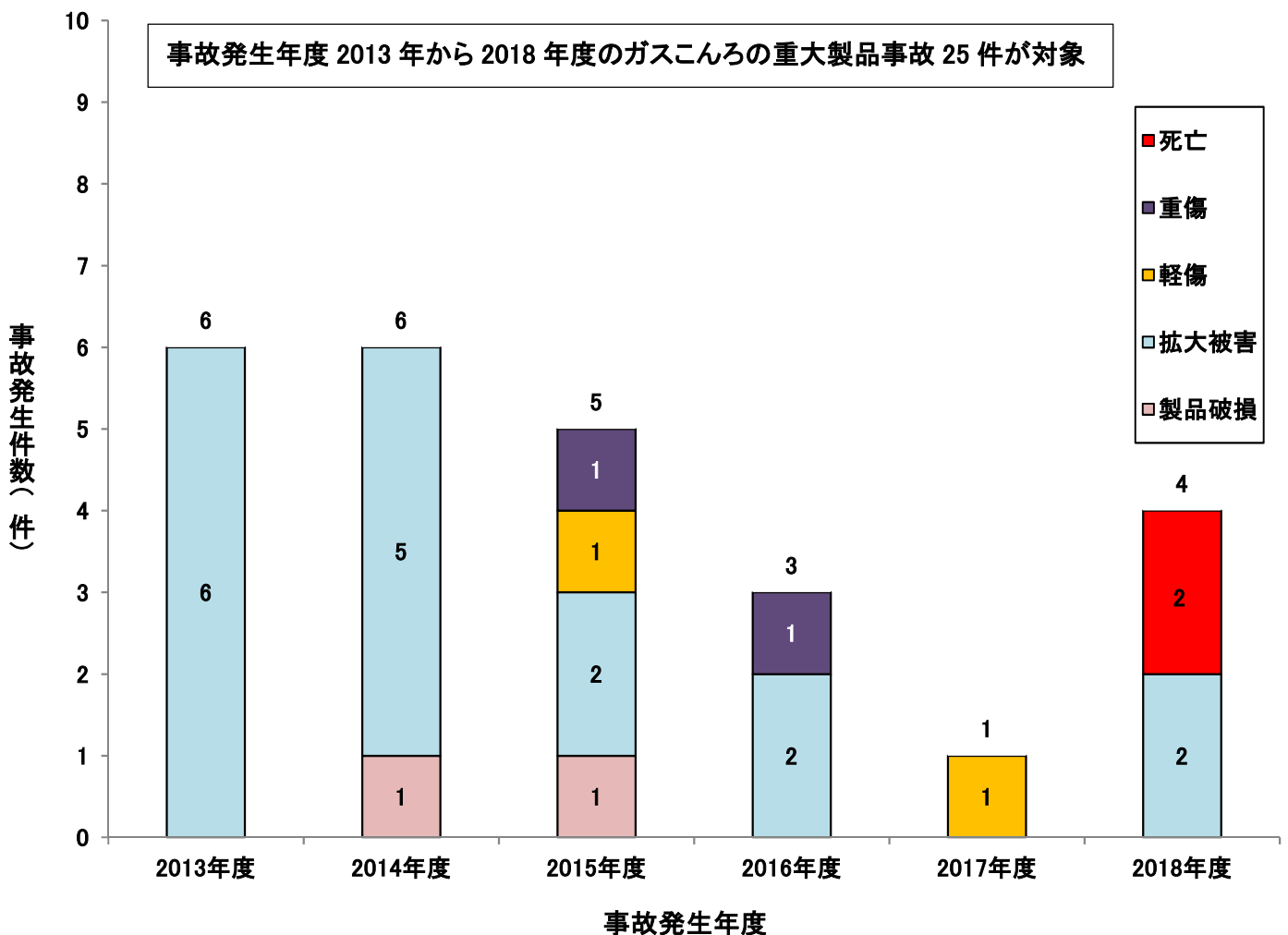


図1：九州・沖縄8県におけるガスこんろの重大製品事故 年度別 被害状況別 事故発生件数

(2) 九州・沖縄8県におけるガスこんろの重大事故情報 事故原因区分別 事故発生件数

九州・沖縄8県におけるガスこんろの重大事故情報25件のうち、調査が終了し、公表している22件について、図2に「事故原因区別 事故発生件数」を示します。

事故原因区分(全国版プレスリリース別紙1参照)に基づいて分類すると、

- 製品に起因する事故(事故原因区分 C) 1件(4%)
- 製品に起因しない事故(事故原因区分 E、F) 18件(82%)
- 原因不明のもの(事故原因区分 G3を除くG) 3件(14%)
となっています。

ガスこんろの重大事故情報は、「製品に起因しない事故」が18件(82%)と最も多く、そのうち12件は使用者の誤使用などによる事故です。誤使用事故の中では「調理油が発火した事故」「グリル庫内で発火した事故」などが多くを占めています。

製品に起因する事故は1件(4%)であり、「Oリングが、長期の使用により上側ロッドと接触することで摩耗して内径が広がったため、ガスが漏れた」経年劣化により発生した事故です。ガス臭さを感じたり、換気してもにおいが消えないときは、販売店やガス事業者に連絡し、点検を受けましょう。

事故発生年度 2013 年度～2018 年度 ガスこんろの事故 25 件のうち、調査が終了した 22 件が対象

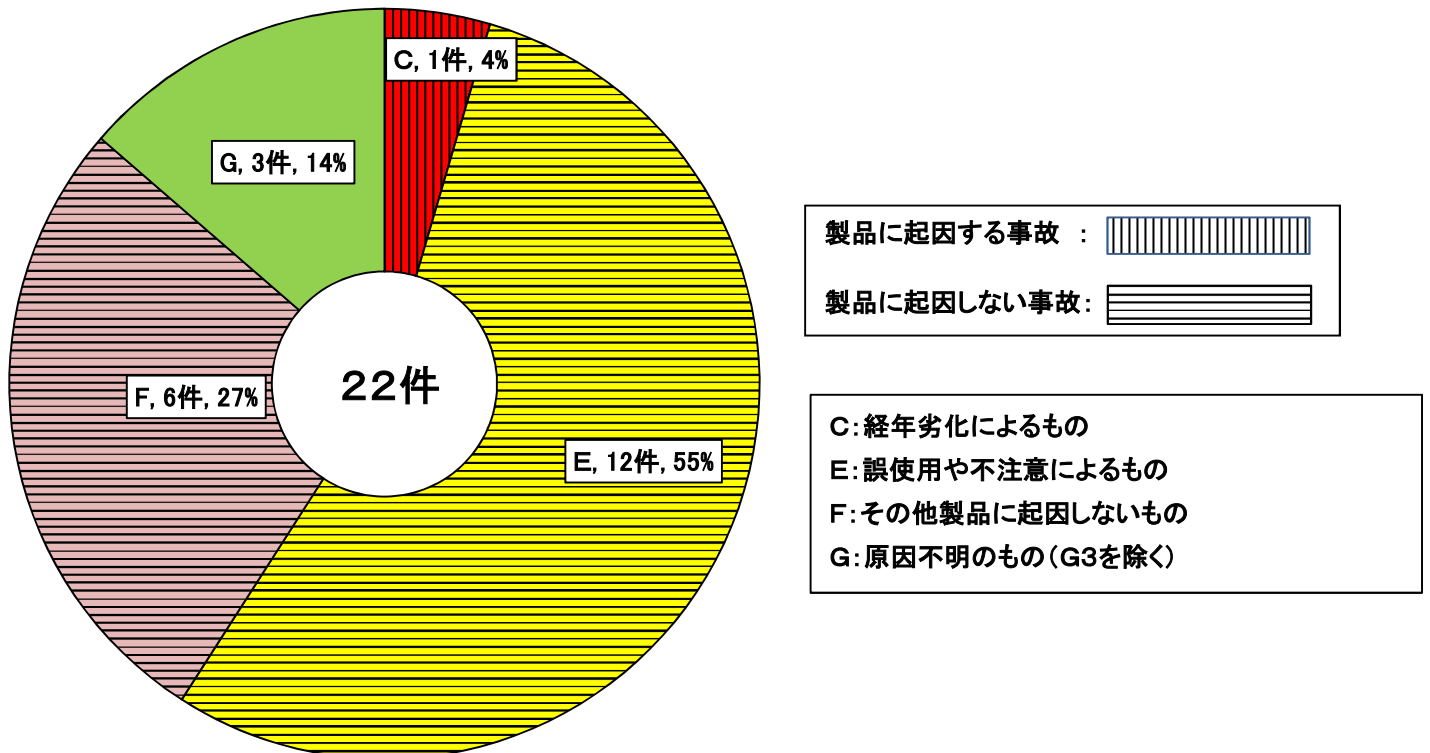


図2:九州・沖縄8県におけるガスこんろの重大製品事故 事故原因区分別 事故発生件数

(3) 九州・沖縄8県におけるガスこんろの重大事故情報 事故原因区分別 被害状況別 事故発生件数
表1に九州・沖縄8県におけるガスこんろの重大事故情報の「原因区分別 被害状況別 事故発生件数」を示します。

2013年度から2018年度の6年間のガスこんろの重大事故情報によると、25件すべてに火災が発生し、2名が死亡しています。死亡事故の他にも重傷2名、軽傷3名(1名は死亡事故に含まれる)となっています。

表1:九州・沖縄8県におけるガスこんろの重大事故情報 事故原因区分別 被害状況別 事故発生件数^{※3}

被害状況		人的被害			物的被害		被害なし	総計	
		死亡	重傷	軽傷	拡大被害	製品破損			
製品に起因する事故	C:経年劣化によるもの					1 [1]		1 (0) [1]	
	小計	事故件数 被害者数 火災件数	0 (0) [0]	0 (0) [0]	0 (0) [0]	0 (0) [0]	1 (0) [1]	0 (0) [0]	1 (0) [1]
製品に起因しない事故	E:誤使用や不注意によるもの			2 (2) [2]	9 [9]	1 [1]		12 (2) [12]	
	F:その他製品に起因しないもの		2 (2) [2]		4 [4]			6 (2) [6]	
	小計	事故件数 被害者数 火災件数	0 (0) [0]	2 (2) [2]	2 (2) [2]	13 (0) [13]	1 0 [1]	0 (0) [0]	18 (4) [18]
G:原因不明のもの(G3を除く)		1 (1) [1]	0 (0) [0]	0 (1) [0]	2 (0) [2]	0 (0) [0]	0 (0) [0]	3 (2) [3]	
H:調査中のもの		1 (1) [1]	0 (0) [0]	0 (0) [0]	2 (0) [2]	0 (0) [0]	0 (0) [0]	3 (1) [3]	
総計		事故件数 被害者数 火災件数	2 (2) [2]	2 (2) [2]	2 (3) [2]	17 (0) [17]	2 (0) [2]	0 (0) [0]	25 (7) [25]

(※3) 重複、対象外情報を除いた事故発生件数。人的被害と物的被害が同時に発生している場合は、人的被害の最も重篤な分類でカウントし、物的被害にはカウントしない。製品本体のみの被害(製品破損)に留まらず、周囲の製品や建物などにも被害を

及ぼすことを「拡大被害」としている。

(4) 九州・沖縄 8 県におけるガスこんろの重大事故情報の年齢別事故発生状況

図3に 2013 年度から 2018 年度の 6 年間ににおけるガスこんろの重大事故情報 25 件のうち、被害者の年齢が判明している 12 件「年齢別 被害状況別 事故発生件数」を示します。12 件のうち 6 件が 60 歳代以上の事故であり、高齢者の被害が目立ちます。

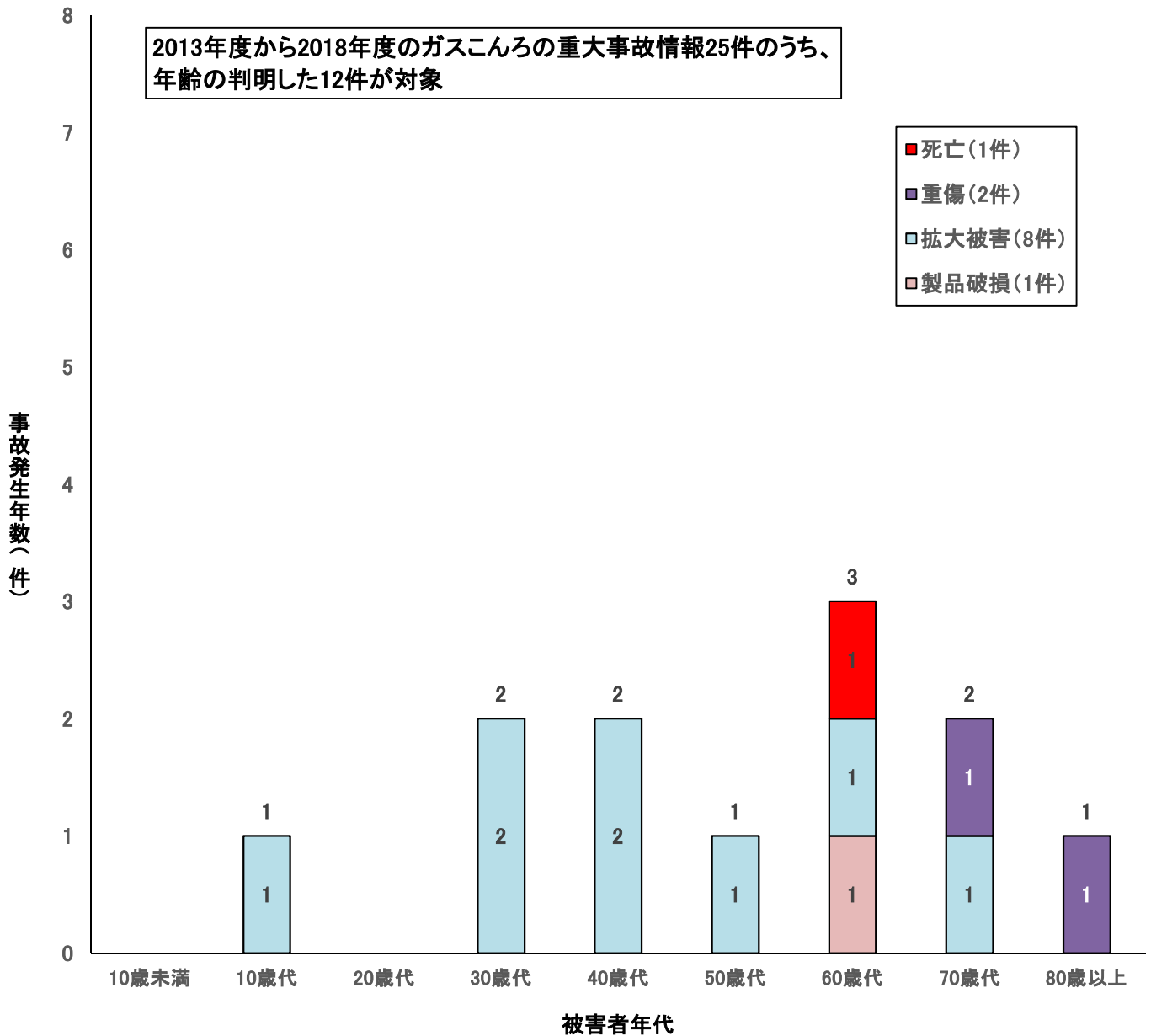


図3: 沖縄・沖縄8県におけるガスこんろの重大事故情報 年齢別 被害状況別 事故発生件数

(5) 九州・沖縄8県における使用者の誤使用などによるガスこんろの事故の発生状況

表2に九州・沖縄8県での使用者の誤使用などによるガスコンロの事故12件の「事故発生状況別 被害状況別 事故発生件数」を示します。

「調理油が過熱し発火」の事故が6件、「グリル庫内の油脂や食品かすなどが発火」の事故が3件発生しています。

なお、現在流通しているガスこんろは調理油過熱防止装置の標準装備が2008年10月より義務付けられています。^{※4}九州・沖縄8県における使用者の誤使用などによるガスこんろの事故12件はすべて安全装置が取り付けられていないこんろを使用していました。2008年以前の古い年式のこんろを使用している場合は、新しいこんろへの買い替えをご検討ください。

表2:九州・沖縄8県におけるガスこんろの事故 事故発生状況別 被害状況別 事故発生件数^{※3}

事象	被害状況	人的被害			物的被害		被害なし	総計
		死亡	重傷	軽傷	拡大被害	製品破損		
	調理油が過熱し発火			2 (2) [2]	4 [4]			6 (2) [6]
	グリル庫内の油脂や食品かすなどが発火				2 [2]	1 [1]		3 (0) [3]
	グリルの消し忘れや放置により庫内の食材などが過熱し発火				1 [1]			1 [1]
	こんろの周囲に燃えやすいものを置いていたため発火				1 [1]			1 [1]
小計	事故件数 被害者数 火災件数	0 (0) [0]	0 (0) [0]	2 (2) [2]	8 (0) [8]	1 (0) [1]	0 (0) [0]	11 (2) [11]
	その他				1 (0) [1]			1 (0) [1]
総計	事故件数 被害者数 火災件数	0 (0) [0]	0 (0) [0]	2 (2) [2]	9 (0) [9]	1 (0) [1]	0 (0) [0]	12 (2) [12]

(※3) 重複、対象外情報を除いた事故発生件数。人的被害と物的被害が同時に発生している場合は、人的被害の最も重篤な分類でカウントし、物的被害にはカウントしない。製品本体のみの被害(製品破損)に留まらず、周囲の製品や建物などにも被害を及ぼすことを「拡大被害」としている。

(※4) 業務用ガスこんろ及び卓上型一口こんろは例外としている。

2. ガスこんろの事故事例

九州・沖縄8県におけるガスこんろの事故事例を示します。

(1) 調理油が過熱し発火(安全装置なし)

2017年11月(長崎県、年齢不明・性別不明、軽傷)

【事故内容】

ガスこんろ及び周辺を焼損する火災が発生し、1名が軽傷を負った。

【事故原因】

ガスこんろは調理油過熱防止装置が付いていない仕様のものであり、天ぷら調理をした後に火を消し忘れたため、鍋の油が発火したものと考えられる。

なお、取扱説明書には、「火をつけたままの移動、外出、就寝禁止。料理中のものが焦げたり燃えたりして火災の原因になる。」旨、記載されている。

(2) グリル庫内の油脂や食品かすなどが発火

2017年3月(福岡県、70歳代・男性、拡大被害)

【事故内容】

ガスこんろ及び周辺を焼損する火災が発生し、1名が軽傷を負った。

【事故原因】

ガスこんろのグリルには、過熱防止装置及び消し忘れ防止装置は搭載されていなかった。ガスこんろは、グリル使用後の消し忘れによりグリル庫内が過熱し、食品かすが発火し周囲へ延焼したものと考えられる。

なお、取扱説明書には、「使用後の消火を必ず確かめる。グリル使用後は必ず掃除をする。」旨、記載されている。

(3) グリルの消し忘れや放置により庫内が加熱し発火

2015年3月(福岡県、年齢不明・女性、拡大被害)

【事故内容】

ガスこんろを使用中、ガスこんろを焼損し、周辺を汚損する火災が発生した。

【事故原因】

ガスこんろのグリル庫内に過熱した痕跡が認められることから、使用者が誤ってグリルを点火したため、空だき状態となり、グリル内部が過熱されて、付着した油脂等が発火したものと考えられる。

なお、取扱説明書には、「グリル使用後は必ずお手入れする。グリル水入れ皿にたまった脂や、調理物が燃えて火災のおそれがある。」旨、記載されている。

(4) こんろ周囲に燃えやすいものを置いていたため発火

2014年3月(沖縄県、30歳代・女性、拡大被害)

【事故内容】

ガスこんろを点火したところ、ガスこんろを焼損する火災が発生した。

【事故原因】

ガスこんろのグリルで食パンを焼こうとして、誤って右側こんろの操作ボタンを押し、その場を離れたため、右側こんろに乗せていた電気炊飯器の下方部分に右側こんろの火が着火し、火災に至ったものと考えられる。

なお、取扱説明書には、「火をつけたまま機器から絶対に離れない、就寝、外出をしない」旨、記載されている。

3. ガスこんろの事故の実験映像の提供

ガスこんろの事故の実験映像の写真及び動画をご希望の場合は、下記のお問い合わせ先までご連絡ください。
なお、映像をご使用の際、クレジットは「製品評価技術基盤機構+nite ロゴ」としてください。

※nite ロゴ



(本件に関する問い合わせ先)

〒815-0032 福岡県福岡市南区塩原 2-1-28
独立行政法人製品評価技術基盤機構
九州支所 技術課
担当者 澤田、篠崎

電話:092-551-1315、FAX:092-551-1329
e-mail:sawada-mitsuhiro@nite.go.jp
e-mail:shinozaki-kenzo@nite.go.jp

以 上